

【対面安否確認訓練についてのアンケート】に寄せられた会員からのご意見

《安否確認グループの編成について》

A. 従来の安否確認グループがよい・従来のグループを活かした新しいグループ分けがよい

- 回覧グループだと裏側のお宅があまりよくわからないので、今までの向かい合わせのグループがよい。(60代)
- 非難が困難な人や救助が必要な人を迅速に発見するという目的においては、従来あったグループのほうがスムーズではないか。(家が向かい合っているので)何かと集まったりしやすいから。(50代)
- ゴミ集積場所が一緒なので、顔見知り同士の従来のグループがよい。(60代)
- チームリーダーが把握するのは、通り一つの両側の家が限度！(70代)
- 従来のグループでは、8軒で一本の道路を挟んでだったが、今回は、他の道路やマンションのお宅も加わり、安否確認をする範囲が広がり、災害が起きたときに助けることも、(道路やブロック被害などが起きたら)移動もできないと思う。同居人数が60人になるのも多すぎる。(50代)
- 従来のグループは顔見知りの方が多く、しかも短時間に集まりやすく、非常時には最もよいグループ分けだと思っていた。どうして今回のように世帯数を多くしたのか疑問に思う。安否確認なので短時間に行えるようにしてほしい。ちなみに、今回のグループでは同居家族人数は60名弱になる。(70代)
- グループ分けについては、自治会の班単位は連絡効率から考え、防災については身近な単位ということから考えるべきで、班を防災グループとすることには無理がある。管理スパンという考え方からも班長の掌握範囲を超える。グループは、従来のままとし、数年に1回、防災訓練の際にリーダー見直しを働きかければリーダーの交代もスムーズに進むと思う。(70代)
- 対面安否確認訓練は、自治会の班とは異なっているけど、通りの向かい合っている方々と訓練するのが望ましい。日々お見かけする顔見知りの方々とであれば、非常時に協力し合える。(50代)
- たとえブロックや班が違って、道路を挟んだ両側の家同士のほうが、交流があり、顔見知り。3・11大地震のとき、みんな道路に出て無事を確認したり、情報交換をし合ったりできる。道路を中心に考えたほうがよい。(70代)
- グループ分けは従来どおりがよい。(80代)
- 道路を挟んで向かいの列で1グループがよい。いつも顔を合わせる人たち。声をかけるにも好都合。つまり、以前のグループのほうが合理的でコミュニケーションもとりやすい。(80代)
- 回覧グループは道路で向き合っていない。裏側のお宅とは、会話もしたことがなく、どんな人かもわからない。※同様意見2件(80代、60代)
- グループにこだわらず、近隣の声かけでよいのではないかと。(80代)

- コロナ禍ではあるが、安否確認訓練はご近所の方々の近況を知ることができ、皆さんが集い、対面でお話のできる数少ない機会である。班長さんにはご負担をおかけするが、少なくとも年に一回は、従来からの安否確認訓練を実施していただきたい。(50代)
- ◎従来の安否確認グループはとてもよく考えられている。グループの世帯数も10軒くらいでちょうどよかった。また、近所でも日頃顔を合わせないので、1年に一度集まるのよいことだと思う。ぜひ、これを続けてほしい。(80代)
- ◎自宅前で待機するより、集まれる場が確保できるなら一か所に集まったほうがよい。安全確保もできるだろう。一か所に集まった近隣住民同士が言葉を交わすことができ、今後につながるのでは。また、複数が集まれば、万が一のときに情報を共有し、役割をその場で確認して、見守りが必要な人に声かけをすることも可能になったり、火の元は確かめたかななどのチェック機能も働いたりするのでは？(40代)
- ◎この数年間安否確認訓練が実施されておらず、他の自治会から遅れをとっていた。これを機会に防災について、日限山自治会として真剣に住民の安全を確保するための取り組みをしていただきたい。(70代)
- ◎ふだんから、近隣の4軒の方々と防犯などで見回りをしている。このような関係が非常時に必ず生きてくると思う。(70代)
- ◎従来グループを基に、実際の災害の大きさによっては日ごろからの人間関係が、二次災害を不すぐことにつながると思う。ムリせず良い方向に連携できるとよい。(50代)
- ◎災害時避難生活をする場合、知り合い同士で避難生活をするができる。(80代)
- ◎ここ何年かコロナのため、安否確認が行われていなかった。それでもできることは何かあったのではないかと考えていた。安否確認をすることによって、ご近所さんと顔見知りになり、ゴミ集積所で話したりして、より仲良くなれる。こんな素敵な流れができていたはず。ぜひ続けていただきたい。(70代)
- ◎安否確認グループは少ないほうがよい。10世帯前後が妥当。(80代)
- 9Dはもう少し班分けを考えてほしい。知らない人が多い。(80代)
- 10Aは25名の大世帯。こんな訓練はやめてほしい。(80代)
- LINE等で安否確認を登録してあるので、それらを利用して確認できれば、「対面」にこだわらないでもよいと思われる。(80代)
- LINEによる安否確認のほうが現実的。(50代)

B. 今回のグループでよい

- 自治会の班と同じほうがわかりやすい。グループの世帯を知らない。(50代)
- 自治会の班の形を守ることが重要。安否確認グループは不可的であり、今後はスマホの普及によって変わっていくのではないか。(70代)
- 今後も訓練等を通じて近隣との交流を深めていきたい。(80代)
- 近所の避難困難者を把握することにつながる。(40代)
- 災害時、最も必要なのは、ご近所の助け合いだと思う。(60代)

C.どちらが良いか判断できない

○どちらとも言えないが、従来通りのほうがやはり顔を見知っていてわかりやすい。
(40代)

△従来がどうだったかがわからないので判断できない。(30~80代) ※同様の回答数9

△班長やチームリーダーの負担が大きすぎないようにすべき。(30・50・70~80代)

※同様の回答数4

- 高齢になったのでひとりでまとめるのが大変。サブを置いては？(80代)
- 判断がつかないが、いずれにせよ密になるような集合は避けたい。(60代)
- 訓練実施内容について事前に、住民に知らせることが大事。本来は自治会員であるかどうかは別にして住民全体が対象となるはず。(80代)

《対面安否確認訓練そのものの必要性》

A.必要

- ご近所の方々の顔を見る機会が少ない昨今なので、訓練はよい機会だと思う。(60代)
- 高齢になると一年で状況が変化しやすいので、毎年行ったほうがよい。(70代)
- 高齢者の独居なので、毎年このような機会があることが望ましい。(80代)
- 高齢のため年々状況が変わっていくので、毎年実施してほしい。在宅避難の場合は家族で支えてもらえるが、小学校拠点への避難には自治会の支援が必要。(80代)
- 年に2回くらい行ってもよいのでは？LINEは正式にはいつからの運用となるのか？LINEの案内がわかりづらく、登録期間が短すぎる。(40代)
- 毎年行うことが必要な理由は、毎年、役員や班長が交代するから。今回の時期ではなく、新しい班長の体制になった早々に行う必要がある。空白の時期に災害が起きれば混乱が発生するから。(30代)
- 3年ぶりの安否確認で安心した。班長さんは大変だったと思う。感謝。チラシが立派過ぎる。(60代)
- 確認してもらおう立場としてはどんなグループでもかまわない。リーダーの方々の手間による。実際、自宅を離れている間に災害に見舞われるかもしれない、複数のリーダーがいてもよいのかもしれない。(50代)
- △10ブロックA班は、班長が1人で24軒を見なければならず、高齢化が進む中、考慮が必要。(80代)
- 対面安否確認ではなく、ツール(LINE等)を使用した確認でよい。(50代)

B.必要かどうか疑問

- △両隣の安否確認でよい。年配の方がわざわざ出てきて転んだりする危険も視野に入りたい。(60代)
- △もう少し今の時代にあった方法を検討して行ってほしい。現実的に災害で混乱している時に、このような方法が可能なのか、疑問に思う。(40代)
- △訓練はやったほうが良いと思うが、留守が多く不在のため、我家では少し意味がないかなと・・・2~3年に1度だと休みが取れて参加できるかも？(50代)

- △シフト制で夫婦共働。今回は休みを申請できたが場合によっては訓練に参加できない時があるかもしれない。訓練に参加できない時はどのようにすればいいのか？(40代)
- △訓練は2年に1度にチェックを入れたが、今回のように3年に1度がちょうどいい。チームリーダーは廃止したほうがいい。以前チームリーダーを数回経験した。チームリーダーになると、災害時に各家の安否を確認するなどの責任が生じる。ひとりに重い責任を負わせるのではなく、みんなで助け合う必要があると考える。そのための対面訓練でいいと思う。(50代)
- △家の前を出て安否確認するだけで訓練になるのだろうか？(70代)
- △家の前を出しておけば安否確認できるリボンやスカーフなどを用いて、対面でなくても点呼できるシステムがあれば楽だ。(40代)
- △この安否確認訓練は、実際にどの程度の災害が起こった時を想定しているのか、これまでも疑問だった。いざという時に機能するのか？地震や台風(?)など、それぞれどういう時に「安否確認」をするのか、周知してほしい。(50代)
- △対面の安否確認は実施する側(チームリーダー)の負担が大きく、各自宅前では本来の目的を果たしていないのではないかと、むしろ事前聞き取りした内容(家族の人数、要援護者数など)の把握のほうが、町としてはより重要であり、その管理をきちんと行うことに重きを置いたほうがよい。グループを以前の「安否確認グループ」から回覧グループに変えてくれた点はとてもよかった。LINE登録、チャット機能の試験的实施もありがたかった。今後はぜひこちらに移行していく方向で、LINE利用していない世帯が取りこぼされないような仕組みを強化してほしい。小学生の子どもが、集団行動できない場合がある。(40代)
- △チームリーダーが回るのは大変だし、効率が悪い。実際に大地震などが起きたとき、一か所に集まることができるのかも難しい気もするが、どちらがよいかといえば、従来通り一か所に集まれる人は集まる、と言うほうがよいかもしれない。(50代)
- △チームリーダーが不在の場合、全員避難所に行った場合など、イレギュラーなケースが多いので、実際の災害時に有効か心配。逆に、高齢者など避難困難者への手厚い対応が必要かと思う。(50代)

C.不必要

- 対面安否確認のお知らせがカラーコピーとなっているが、モノクロで十分。無駄にコストをかけている。何を訓練したいのか、実際の発災時における運用、ルールがわからない。今回の訓練の目的も不明確。(40代)
- LINE登録者はLINEで済ませる方法でよい。(70代)
- ラインをフル活用すれば、わざわざ家前に行く必要はない。(60代)
- メール、LINE、電話などで充分。まったくご近所と交流がないわけでもなく、本当に緊急時となれば、よくお話しする近所の方でも、あまり話したことのない近所の方でも、声かけできると考えている。地域のグループLINEに参加しているので、本当に何かの際には、通信可能な状況であれば、LINEが一番効率よくつながれるツールだと思う。役員や班長、リーダーの負担も軽減できる。(50代)

- 家族が自力で避難できる家庭はメールや LINE で安否確認すればよい。(40代)
- そもそも net でやればよい。(60代)
- 安否確認はアンケート実施で充分。(80代)
- 安否が確認できれば「対面」の必要なし。(70代)
- 以前に親の介護中に安否確認訓練がありましたが、ヘルパーや在宅看護の人たちと目まぐるしく対応していたので、煩わしかった。現在は特に必要としていない。希望者のみでよいのではないか。(60代)
- 今年 LINE 登録したが、利用方法が不明。活用してほしい。(40代)

D.切実な声

- ◎避難できるつもりだが、できれば声をかけていただきたい。年齢から言って心配なので。(80代)
- ◎自力避難は、今回は OK。でも先のことはわからない。(80代)
- ◎主人が 90 歳になり、足腰が年々弱くなっているのので、いつ地域の皆様の助けを借りる時がくるかわからない。(80代)
- ◎コロナを恐れるあまり外出を控えすぎて、筋力が急速に落ちヨロつくようになった。ご近所に何かとお世話になることも多くなった。(80代)
- ◎緊急に避難が必要な場合、必ずしも家族の支援があるとは限らないので、自治会や近助の人に助けてもらわなければならないかもしれない。(80代)
- ◎母が難聴で足腰も弱くなり、支援をお願いすることになるかもしれない。(50代)

《その他のご意見》

- ※世帯人数は、防犯にかかわる重大な個人情報である。取扱いは大丈夫なのか？聞かなくてもよいのではないか？(30代)
- ※決めたもろもろのルールは変えないほうがよい。朝令暮改はやめてほしい。慎重に検討すること。(80代)
- ※以前安否確認リーダーをしていた。今回についても、自分が確認に回る担当なのかどうかかわらず、そろそろどなたかに問い合わせようとしていた。安否確認の単位(グループ)についてはどうするのか事前に知らせてほしかった。過去のリーダーの手元には、ファイルが配られており、担当グループの要支援者数や家族数のデータも残されているはず。それらの取り扱いは？方針が決まったら回覧等で回してほしい。持ったままの人は他にもいるはず。(50代)
- ※当方ロワレール日限山在住。次回以降、マンション在住者は、一時一つの場所に集合する案の検討の余地があればお願いしたい。(60代)
- ※自宅固定電話への自動音声での参加としていたが、当日留守だったため折り返しのメッセージがあった。045～ではなく、ヒカリ回線からの発信扱い(050～)となってしまう、折り返しの安否確認電話がかからなかった。(50代)
- ※LINE 訓練は返信が必要だと思う。(60代)
- ※実情に合わせた訓練を考えていただき、ありがたかった。(80代)

※電話での音声ガイドが早口で聞き取りにくかった。(60代)

※防災訓練はいつも土曜日。災害は土曜日限定ではないのに。(50代)

※自治会長は、非常時に現場の陣頭指揮を執る必要があり、心身共に健康な人になってもらいたい。(70代)

※安否確認訓練欠席者の消息を知りたい。無理にとは言わないが。(80代)

※ペットの有無の調査もあったほうがよいかもしいれない。(60代)

※我が家は2世帯。家族はどうカウントするのか。この地域はかなり2世帯が増えている。それぞれが世帯。(80代)

※ご近所と親しくしたいが、信頼できる人ばかりではない。(80代)